

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2672300106
法人名	社会福祉法人 みねやま福祉会
事業所名	グループホーム かえで
所在地 (電話番号)	京都府京丹後市弥栄町溝谷3581番地 (電話)0772-65-4111

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区河原町五条下る東側 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年11月20日	評価確定日	平成22年2月14日

【情報提供票より】(H21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,200円				

(4) 利用者の概要(11月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	7 名	要介護2	4 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82.6 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京丹後市立弥栄病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「かえで」は「峰山」駅から車で10分、畑や宿泊できるゲストルームをもつ平屋建て2ユニットの空間的にはゆとりあるホームである。運営推進会議の席上、家族から「施設に入れ可哀そうといわれる。世間にグループホームのことを知らして欲しい」との発言があれば、ホームでの生活の様子をパワーポイントにまとめ、地域の関係機関や、福祉団体に出向き紹介するなど、家族の戸惑いや、ためらいに答える取り組みをしている。また法人内の「サービスの質の管理」(以後「QC活動」と記す)に参加し、ホームとして昨年度は「利用者の情報収集」をテーマに、家族、利用者アンケートを実施し、結果を利用者のケアに活かしている。今年度は居室の整理整頓を掲げ、「自分らしい部屋ですか?」をテーマに取り組んでいる。今年度、管理者が変わったが、地域に根ざした施設、地域貢献は引続き力を注ぎ、中学生の福祉体験受入れ、町内会の空き缶集め、草取りボランティア、ベルマークを集め地元小学校に協力、利用者自作の折紙等を持ち保育園を訪問し園児との交流など、地域向けの多様な取り組みは当ホームの特出した点であり、これらの実践を京都地域老人福祉学会で発表をするなど意欲的な姿勢は評価できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年来の課題であった「水分補給」の記録は対応がなされている。介護計画に沿った実践とその記録化を目指し、日誌のフォーマットを改良した。この記録を介護計画の充実や、介護計画の見直しに反映させようとこれらの点は、引続き課題とされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価も全職員が参加し、会議で検討し作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の参加メンバーは地域の区長、老人会会長、民生委員、行政関係者、家族、利用者である。議事進行のあいさつは利用者が行っている。参加家族からのグループホームの啓発要望に対し、中学生の福祉体験時の利用者、生徒の様子をパワーポイントで地域の会合で報告し、家族からホームの理解に役立つとの発言を得ている。市民局の職員からは認知症に対する市民向けの研修にホームのケア経験を活かして欲しいとの発言が寄せられたり、中学生の福祉体験のその後についての質問ははじめ、参加者の活発な意見交換はホームの理解を委員はもとよりホームの現況を地域に伝える機会になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの暮らしの情報は、利用者毎の月間金銭出納状況、ホームの生活や、利用者の様子を伝える四季報「かえでだより」が家族に届けられている。家族の訪問は平均週1回~月2, 3回で、来訪時には家族と話し合う時間を持ち、意見等を聞けたらと努めているが少ない。このようななかで運営推進会議で参加家族から出される疑問や意見等は貴重である。意見や要望に対しては委員の意見も交え、ホームの考え方を示すと共に、社会福祉協議会や、敬老会等との連携の基に改善に向け取組む例も少なくない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の婦人部の活動の場にゲストルームを提供し、利用者とも交流の機会に活かし、将来的にゲストルームを学童保育の場に活かさないかとの案も出ている。婦人部主催の「ひまわりクラブ」や、文化祭・区民運動会等に積極的に参加している。近隣の保育園に手作り作品や折り鶴を持参し訪問したり、中高生の体験学習を積極的に受け入れる等、地域との連携を積極的に図っている。ピアノの寄付を募集し、ピアノの弾ける福祉体験生との企画を楽しみにしている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念「管理よりも生活を」を基に、毎年各ユニットごとに年間の目標を掲げている。年度当初、職員が話し合い、和ユニットは、「思いやりが笑顔をもたらす和の中で」とし、洋ユニットは、「明るく元気いっぱいに楽しい日々をすごしましょう」としている。笑顔は心に繋がりが大切にしたいと管理者は強調している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・目標はホールに挙げられている。利用者の生活に軸足をおき利用者中心の生活の具現化に向け職員会議で情報の共有に務めている。2つのユニットは、同じ建物構造であるが、屋内の雰囲気には個性がある。共通する点は、利用者が気さくで自らの部屋を案内していただき表情、会話に明るさがある。一方職員は、利用者と共に文化祭向けの共同作品づくりや、地域活動に行動的な取り組みが見られる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元婦人部主催の「ひまわりクラブ」文化祭、区民運動会等に職員・利用者が参加している。ゲストルームを「ひまわりクラブ」のサークル活動の場に提供し、将来的に学童保育的な場として活かせないかとの案もある。近隣の保育園に手作り飾りや折り鶴等を届けたり、中高生の体験学習を積極的に受け入れ、地域とのお付き合いを大事にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が会議に参加し検討の上、作成している。昨年度の課題であった「水分補給」の記録については実行されている。日誌のフォーマットについても、職員全員で検討し改善している。介護計画に沿ったケース記録の記入方法については今後の課題として残されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者は利用者、家族、老人会会長、地域の副区長、組長、民生委員、京丹後市高齢者福祉課である。会議開催の挨拶は利用者が行っている。地域の人はホームのことを知らない人が多いとの声があり、「社会福祉体験の実践発表」をパワーポイントで示し、家族からは安心したとの発言を得ている。市民局の参加者からは認知症研修に対する協力依頼が寄せられるなど、参加者からの提案や、意見交換は活発である。		

京都府:グループホームかえで

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護課の担当者とは定期的に情報交換をしている。一方市長寿福祉課や、高齢福祉課の職員は運営推進会議のメンバーであり、相談等は日常的に行える関係である。会議で市民向け認知症研修の協力要請もあり、これらをきっかけに市町村との連携を図りながら、ホームで培った知識、経験を地域に還元したいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書に金銭出納簿のコピー、写真満載の四季報「かえでだより」で、利用者の生活の様子を伝えている。家族の訪問は、週1回～月2、3回が多い。来訪時には、利用者の様子の報告に加え、利用者のケアに活かすための情報として利用者の好物・思い出の場所、趣味等を聞き出すなど、利用者についての情報交換に留意している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から、グループホームのことをもっと地域に知らせてほしいとの要望に社会福祉協議会、敬老会等で「地域を支えるケア」と題してパワーポイントで報告している。結果「周りの方が施設に入れ、可哀そうにといわれるが、安心した。」と発言され共感を得ている。散歩の機会を増やして欲しいとの要望に、ボランティアの活用も視野に入れ、関係機関との連携を図りつつ要望実現に努めることになった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年度初めに管理者が交代した。前管理者は、すべての利用者・家族に挨拶をし、異動によるダメージに配慮し退職されている。和ユニットの退職者が3名あり、ベテラン職員1人を含む人的体制強化をし対応している。2ユニットの管理者は1名で両ホームを兼務し、現場にも係わり人的には厳しいが、現場は入りエネルギーに動かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近畿、京都府両老人施設協議会主催の研修、認知症実践者研修を経験別で参加、他にグループホーム関係の外部研修に参加している。当ホームは法人独自のQC活動に参加し、「利用者を知ろうとする気持を大切に」とコメントを付した法人内の「敢闘賞」を受賞している。このことで職員の課題意識が深まったと管理者は評価している。21年度京都地域老人福祉学会で実践を発表するなど、職員育成に努力が見られる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村も関与する地域内6関連事業所が開催する「地域密着型事業所会議」に参加し管理者や、現場職員間の交流研修を実施している。各施設の見学会は一巡したので、これから職員の交換研修をする方向で企画し実施を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ゲストハウスが設けられ体験入所が出来、利用されている。家族の宿泊利用も出来る。一方入所はじめた利用者においても、外泊を希望する利用者には家族との関係等に配慮し、調整の上外泊を支援する事例もある。環境の変化に馴染めるよう利用者・家族の要望を受け入れ対応する体制で取組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者の共同制作では畳1畳ほどの大きさの板に、下絵を書き色画用紙をテープ状に切り、筒状に巻き下絵に沿って埋めてゆく根気の要る作業に着手し、地域の文化祭に出展している。会場に飾られた作品は来場者の関心を引き利用者ともども達成感を得る貴重な経験となっている。刺し子、折紙など手芸に興味ある利用者、料理に関心がある利用者は材料の購入、調理を通し職員と共に作業に臨み、達成感を共有する経験となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	QC活動の一環で実施したアンケートは、利用者の仕事・趣味・好きな食べ物などを家族の協力も得て収集したものである。例えばホームの毎日の食事について「甲・乙・丙」の利用者に馴染みの表示で評価を付けてもらい、好評を得た献立は誕生会や、外食時に活かしている。内容的にはこのQC活動から得た情報は一人ひとりのケアにも活かせるもので、介護計画等に反映させる工夫を今後の課題として期待したい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	QC活動から得た情報をユニット単位に「アセスメント概要一覧表」としてまとめ職員の目に触れるところに掲示し、注意喚起している。ただし趣味、嗜好等6項目に分け作成された項目や、内容は介護計画書等に現段階では反映されていない。	○	QC活動で聞き出した各利用者のアセスメント情報を介護計画に活かす工夫、取り組みが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的に行われているが、日々のケア記録等から、その根拠となる事実が十分に把握できない。つまり日々の介護記録と、介護計画とのつながり、モニタリングに至る経過が介護記録上で、明確に把握困難である。	○	日誌の様式の改善もあり、日誌には利用者の発言が「」で綴られている箇所がある。これら利用者の生の声や、家族、関係者との話し合いの内容を踏まえ、見直しに活かす検討が望まれる。

京都府:グループホームかえで

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	献立に関しては系列施設の管理栄養士に相談し助言を得ている。理美容への送り迎えを実施し、ホーム内ゲストルームでの家族の宿泊、利用者の居室での家族の宿泊のほか、地域の婦人会等の活動の場に提供し、利用者と地域の人たちとの交流機会、活動参加の機会になっている。法人で行われる諸行事に参加し、交流や、レクリエーションの機会を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	車で5分ぐらいで行ける京丹後市立弥栄病院と年間契約をしている。入退院時は医療連携室と調整し、カンファレンスを持ち対応している。通院は家族に付き添いをお願いし、必要に応じ職員も同行している。認知症専門医にかかっている利用者はいないが、主治医に相談を持ちかけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療面のケアが「かえで」では十分できないという思いが職員間に強く、現に医療面で緊密に相談できる医療資源はホームの近辺に乏しい。よって終末期ケアや、取組みについて職員間で検討が出来ていない。	○	家族が重度化や、ターミナル期をどのよう過ごさせたいと思われているかを傾聴し、職員間で情報を共有することが期待される。同時に法人としての方針や、マニュアル等を参考にし、関連研修を受け、ホームとしての考え方や、実施に際し整備すべき条件を検討し、支援内容を明確化、具体化してゆくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室に電話線が敷かれ設置することができる。プライベートなことの話しが家族を含め、外部と自由に行うことができる。トイレ誘導は、耳元での声かけ、アイコンタクトで行うなど職員間で意識し対応されている。個人情報、事務室で管理、たよりの写真等にもプライバシーの視点での対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケをしたい人はカラオケを楽しみ、折り紙の好きな人は、作品で居室中を飾り、学習療法が好きな人は読み書き計算に取り組んでいる。一人で外出をする利用者については少し離れたところから見守ったり、職員が同行したりと、利用者は日中を思い思いに現段階では過ごされている。		

京都府:グループホームかえで

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「洋のユニット」の食事は賑やかである。おしゃべりしながら食べている利用者が多い。後片付けは強制されるのではなく、流しまで運んでいる。調理に参加する利用者もいるので、調理台は低めに設定されている。また、食材の大きさ・硬さを利用者の状態に合うように工夫されている。「和のユニット」は2箇所に分かれ食事がなされ、比較的静かな食事場面であるが、ゆっくり職員と共に食事を楽しまれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は希望があれば回数や、時間の制限を特に設けず入浴を楽しむ支援を心がけている。介助は同性介助が基本である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯・干し・たみ等を日課にされる利用者、和裁を楽しむ利用者、牛乳パックでペンたてを作り、小学校等に進呈する利用者、得意なこと、趣味を大切に個々の利用者への支援を大切にされている。行事のあいさつの上手な利用者には運営推進会議の挨拶をと職員は利用者の得意なことを見出すようにし、さりげないサポートを原則に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材を買いにでかける、小グループで天橋立、味わい里レストラン等に出向く、誕生日には、希望を受け武家屋敷等にマントーマンで外出同行を行うなど外出支援をしている。但し利用者の体力差も顕著となり、利用者に合わせて外出支援には職員体制面の配慮が一層求められ、現段階ではやりくりし実現している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	洋・和の両ユニットの共通の玄関は昼間は鍵はかけられていない。一人で外出され、地域や、近隣の施設から、連絡が来ることがある。普段の様子の変化に職員同士で注意し、外出された場合は、後方から見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の避難訓練はしていないが、毎月日時を定め午後1時半から3時の時間帯で職員が2人になる条件を設定し、消火活動、避難誘導訓練を実施している。地域の消防団には協力要請をし、年2回の地域との合同防災訓練を実施してきた。備蓄は主に麺類を保管し、近所のスーパーと連携できるようにしている。	○	夜間想定訓練なども今後計画、実施されること。運営推進会議で防災に関する話題を取り上げ、地域との具体的な協力体制や、連携についての検討を期待する。

京都府:グループホームかえで

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定があり、体重が増えている利用者には、系列施設の管理栄養士に相談しているが、カロリー管理まではできていない。水分補給は意識的にこまめに最低1回150ccを目安に合計1200～1500ccを設定されている。これらの記録は日誌に記されている。体重コントロールのための栄養管理面への取り組みを期待したい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとしてはゆとりがあり、天井が高く、リビング・食堂の窓が大きく明るい。リビングにはソファと掘りごたつがある。台所も広く4人ぐらいはゆったりと調理できるスペースがある。調理台は低いので利用者は調理がしやすい。浴室の脱衣場は床暖房完備。ゲストルームは浴室・トイレが完備され、家族は快適に宿泊できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「洋ユニット」は各室はカーペット敷きであり、トイレのある居室が3室ある。各居室にはドレッサーが設けられている。ドレッサー、空調器以外はすべて利用者の持ち込みである。「和ユニット」は、各室には玄関のような上がり框があり、押入れがある。居室に冷蔵庫を置いている利用者もあり、それぞれ利用者により個性ある居室となっている。		